

関西理学療法学会一泊研修会 ナイトセミナー

『トイレ動作（を考える）』

【要旨】

私たちの生活において『トイレ動作』は必然的な動作であることは言うまでもありません。改めて『トイレ』における『動作』を見直してみると、様々な要素が必要であることがわかります。例えば、大きく分けると以下の2つに分類できると思います。

- ① 移動動作（トイレまでの移動・トイレ内での動作）
- ② 上肢の操作（ドアの開閉や便器のふたの操作・ズボンなどの更衣動作・後始末に至るまで）

しかしながら、よく考えてみると、上記に示した2つの分類の中には非常に多くの感覚が関与し、動作が複雑であることがわかります。例えば・・・

- ③ 特別な空間の中で行われること
- ④ 情緒面が深く関係すること（部屋の明るさ・周囲の雰囲気・臭い・音・・・等）
また、移動動作が獲得されてもトイレ動作は実効出来ない場合があります。それは・・・
- ⑤ 生理学的に十分なコントロールが機能していないとその動作が実現しないこと（排泄のコントロール・自律神経コントロール等）
- ⑥ トイレ行為そのものが十分理解できていないと実現しないこと
- ⑦ 排泄臓器の円滑な活動の保障

このセミナーでは、単なる「手段的動作」だけではなく環境面も考慮した「要素的動作」に対しても注目し、普段の生活動作との関連について考えながら、よりよい介入・操作方法を皆さんと一緒に考えたいと思います。

医療法人社団石鎚会リハビリテーション部

後藤 淳・末廣健児・石濱崇史